

都市農業者の高度な栽培技術を地方へ伝授しセロリの産地化

【セロリ栽培の経緯】

江戸川区では大正時代から15aのセロリ作付実績があり、西洋野菜の先進地でもあった。50年前に当時の東京農業試験場(江戸川分場)の洋菜技術者に指導を仰ぐ。長野県の産地と栽培に関する技術の情報交換等によりセロリ栽培の技術を磨く。

【経営の現状】

経営面積:畑44a(施設36a、5カ所に分散)
生産緑地の指定は全体の約90%
栽培品目:セロリ、夏野菜類(きゅうり、とまと、なす、えだまめ、とうもろこし)
労働力:基幹3人(本人、妻、息子)
収穫・出荷時の農繁期のみパート2名雇用(2h/日程度)
販売先:セロリ(直売80%、市場出荷20%)
販売額:全体1,700万円(約400万円/10a)
(セロリ1,500万円、夏野菜類200万円)

【経営の特徴】

セロリの市場出荷先は主に太田市場であり、40年以上連続して日本一の市場評価を得ている。常時、他産地と比較し5割増程度(600円/kg)で取り引き。セロリは消費者からおいしいとの評判が口コミで広がり、リピーターの購入者が年々増え、現在、直接販売が80%にまで増加。高品質のセロリ栽培を継続するため50年間一貫して土づくりを徹底している。

高度な栽培技術の伝授

都市農業の果たしている役割

【門下生の育成・指導】

A氏の下に各地から指導を求めてくる農家が多く、これまで約50名育成(1年間住み込み)、その門下生は各地で就農。

【地方の産地化へ寄与】

こうした門下生が全国でセロリ栽培(産地化しているところはほとんどA氏の指導。)

(セロリの主な生産県(H16年実績))

	作付面積 ha	10a当たり 収量 kg
茨城県	22	6,830
千葉県	18	5,110
長野県	287	4,710
静岡県	145	6,000
愛知県	42	7,540
福岡県	55	5,990
全国	715	5,040

各地で活躍する門下生の取り組み事例

- ・門下生で組織されている山形市農協セロリ部会では、A氏の選抜育成種(コーネル619)で栽培され、東京市場で最も人気のある産地に成長。
- ・門下生の中で最も大きく成長した岩井市の前進会(出荷組織が発足して30年となり、会員は皆50代)では、2月上旬から出荷が始まり、6月下旬までの長期間の出荷が定着し、出荷箱数57,000ケースと大きく伸展。

門下生が更に地域農業者を指導し、産地の安定、セロリ全体の品質向上

【技術力の向上】

門下生同志の交流等を通じ栽培技術の更なる向上